

2017年 映像ソフト市場総括 Blu-rayシフト進む

GfKジャパン(東京:中野区)は、2017年のセル映像ソフトの販売動向を発表した。※1

【概要】

- ・ 2017年の映像ソフト市場は数量前年比10%減、金額前年比8%減
- ・ 「君の名は。」を含む邦アニメは数量・金額ともに前年比4%増。ジャンル別構成比では前年から3%ポイント拡大。
- ・ Blu-rayソフトの金額構成比は前年の51%から54%へ拡大

【映像ソフト全体】

2017年のセル映像ソフト市場(通常DVD、Blu-rayなど全て含む)は、数量前年比10%減の3,525万枚、金額前年比8%減の1,657億円となった。税抜き平均価格は4,700円と前年をやや上回った。

販売チャンネル別の金額構成比では、Eコマースが前年の57%から59%へ拡大した。また、メディアストアは26%、家電量販店は6%を占めた。

ジャンル別の金額構成比では、2017年の販売枚数No.1タイトルとなった「君の名は。」を含む邦アニメが前年から3%ポイント拡大し27%を占めた(図1)。また、「美女と野獣」をはじめとするヒット作が次々と発売された洋画も前年から1%ポイント拡大した。このほか、邦画と邦TVドラマも各1%ポイント拡大した。一方、最大ジャンルの音楽はタイトルが不足気味であったことなどが影響し、前年から8%ポイント縮小し32%となった。

【Blu-rayソフト】

2017年のBlu-rayソフト市場(4K Ultra HD Blu-ray含む)は販売数量、金額ともに前年を2%下回る1,603万枚、904億円となった。ここ数年上昇していたBlu-rayソフトの平均価格は、比較的単価が安い洋画の構成比拡大もあり前年から横ばいの5,640円となった。映像ソフト市場におけるBlu-rayソフトの金額構成比は前年の51%から54%へ拡大した。

Blu-rayソフトの販売チャンネル別金額構成比は、Eコマースが65%、メディアストアが21%、家電量販店が8%を占めた。

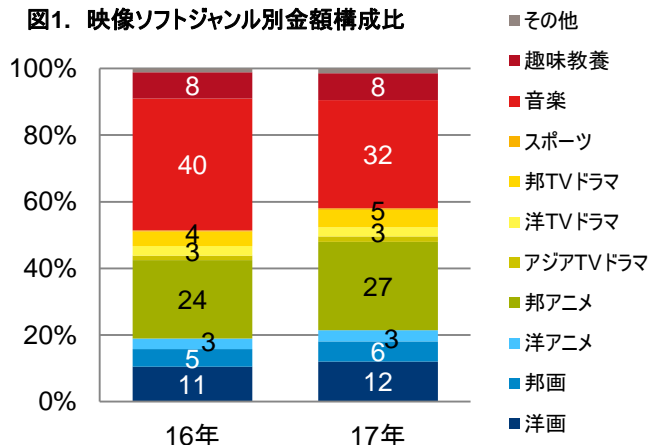
ジャンル別金額構成比では、最大ジャンルの邦アニメが前年の34%から36%へ、洋画が14%から16%へ拡大した。一方で音楽は32%から26%へ縮小した。なお、邦アニメはBlu-rayシフトが最も進むジャンルであるが、Blu-rayソフトとDVDソフトの販売金額比率は75:25であった。

【2018年展望】

2018年も縮小基調と予想される映像ソフト市場だが、DVDからBlu-rayへのシフトが順調に進むため平均価格は再び上昇することが見込まれる。2017年末までに170超のタイトルが発売され、30億円の市場に達した4K Ultra HD Blu-rayが、ソフトの拡充と4K対応機器の普及に伴って徐々に拡大する見込みであることも後押しとして期待される。

※1)映像ソフト市場: 全国の映像ソフト取扱店(メディアストア、家電量販店、総合量販店、Eコマース等)における販売実績を基に推計した市場規模。

図1. 映像ソフトジャンル別金額構成比



※本リリースに関するお問い合わせ先

GfK ジャパン
 広報グループ 茶野 絢子
 tel : 03-5350-4623 Email : info.jp@gfk.com